

日刊 動労千葉

1988. 8. 1
No. 2865

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

出籠批判

清算事業団の再就職 国労西日本の出向協定締結 右翼労戦「統一」

青年部、国労大会にヒラキ入れ！

国労の第五十二回定期全国大会が、七月二〇日から三日間開催された。今次国労大会は八十六年修善寺臨大以降の分割・民営化反対の旗を守りぬくかどうかの重大な大会であった。動労千葉は青年部を中心に会場前でヒラ配り貫徹し、共にストライキでたたかおう！ 革マル・鉄道労連の解体・一掃を！ と訴えた。

清算事業団の仲間を見捨てるな！

大会では、代議員から清算事業団の労働者を守るため全国の総力を結集してたたかおう、という声が出された。国労本部は今大会前「職場討議資料」を出し、北海道・九州の清算事業団の労働者を本州の三会社、さらには公的部門に「再就職」させようと目論んでいた。これは清算事業団の解体であり、国労そのものの解体にもつながる重大なことだ。これに対し、清算事業団の労働者は、あくまでも原地原職の奪還、五千人の首切りを事実阻止するために「十年戦争」で闘うことを明らかにした。

革マル・鉄道労連が「清算事業団労働者はJRに採用するな」と大会決定している中で、二年後をみさえ、清算事業団をめぐる闘いは正念場にかかっている。原地原職の奪還、首切り事実阻止をかけてストライキでたたかおう。

国労西日本の「出向協定」
締結に批判集中

さらに、大会では国労西日本本部の締結した「



「ストライキでともに闘おう」と国労組合員に訴える。

広域出向に関する協定」に批判が集中した。これは動労西日本がストライキで闘った関連事業の子会社とそこへの出向を、西日本本部が独断で西日本会社と締結したからだ。強制出向攻撃とは、動労千葉や国労を解体するためのものだ。東日本二万人、西日本七千五百人も大量強制出向という形で、国労や動労千葉の労働者を職場から排除する以外のなにもない。現在もつづいている本務外し・関連事業勤務を、もつと悪らつに永続化させようというのだ。差別・選別の激化、国労だから動労千葉だからという理由で出向を強要する道を開く出向協定は断じて認めるわけにはいかない。

清算事業団解体も強制出向も狙いは国労、動労千葉つぶし、一企業一組合にある。実力闘争で闘うこと、鉄道労連の解体！一企業一組合粉碎こそ勝利の道だ。

たたかう国鉄労働運動の戦闘的
再生で右翼労戦「統一」を粉碎しよう

来年度の「総評解散・全的統一」にむかって「労働戦線の統一」がいわれている。しかし、これは「統一」などではなく、右からの再編であり、闘う組合の排除・一掃に狙いがある。鉄道労連の加盟する連合をみるまでもなく、闘わないこと、資本の奴隷になることで「統一」しているにすぎない。国労大会で連合に加入しない声が圧倒的であったのは当然のことだ。連合加入は鉄道労連との一体化につながり、産業報国会への道を突きすすむことになる。闘う国鉄労働者を中心とした結集こそ、労働運動の戦闘的再生の道だ。
実力闘争、ストライキで国鉄労働運動の再生をかちとろう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！